



お茶の水女子大学 教育・研究成果コレクション

TeaPot

Ochanomizu University Web Library - Institutional Repository



お茶の水女子大学  
Ochanomizu University

---

Title	インド洋の島々(近況・随筆)
Author(s)	堀内, 清司
Citation	お茶の水地理, 33: 142-142
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10083/12117">http://hdl.handle.net/10083/12117</a>
Rights	

## インド洋の島々

堀内清司

インド洋には多くの島がある。いずれも特色のある魅力溢れた島であるが、最も大きな島は、マダガスカル島である。もう何年前になるだろうか。

アフリカ大陸の目と鼻の位置にありながら、人種・文化・自然は大陸と大きく異なっている。人種は、ポリネシア系とバンツネグロの混合で、それに伴い文化の様式もアフリカというよりむしろアジア的な色彩が濃厚である。例えば農業は米作を主とし、水田が階段状に広がる風景は、インドネシアか日本にでもいるかのような錯覚すら起こされる。アフリカ大陸と目と鼻の先にありながらアフリカとは異質のこの島に魅せられて、いつかマダガスカルほど大きくはないが、同じインド洋のこの付近に点在する島々に行こうと思いついてから何年か経った。

コモロ、モリシヤス、レユニオン、セイシェルはレユニオン（フランスの海外県）を除いて皆小さな独立国である。

やっと訪れる機会がやってきたのは、1980年8月だった。インド洋の海嶺上に頭を出すこの島々の内コモロとレユニオンは活火山がそびえ、つい最近噴火の跡も生々しい様子を見せていた。これらの島を地理の教科書の中にみるのは、人口過剰と砂糖黍の単作の代表的な地域としてであろう。確かに、朝夕ともなると町中の交通渋滞は激しく、特にレユニオンの道路をぎっしりと埋め尽くす車の列は日本以上である。一歩町を出ると見渡す限りの砂糖黍畑、それに加えてモリシヤスではラム酒醸造の煙突が点在する。いずれの島々も小さい割に高度の高いかつ異様な形の山地が特色で、山地に入ると、ここが熱帯の小さな島だということも忘れ去ってしまう。変化に富んだ地形は、狭い島でありながら気候的に特に降水量に大

きな変化を与えている。この島を特色づけるものに自然の災害がある。特にモリシヤス、レユニオンの島は、サイクロンの通過地域に相当し、毎年定期的に来襲するこれによる被害は著しく、島の経済を支える砂糖黍畑がしばしば壊滅的な打撃を受けることもある。

かつて島の経済を支えた砂糖黍畑で働いたインド人の子孫は現在島の経済の重要な部分を占めている。町を歩けば、街角にロンドンをしよばせるビッグベンの時計台の小さな（本当に小さい）ものが立っている一方、ヒンズー寺院も見られるなど、ここはどこだろうかと一瞬戸惑う風景である。島の至るところに市が立ち、日用品から観光土産までありとあらゆる物が売られているのはアフリカ大陸のそれと変わり無い。食事は一般にクレオール料理で、香辛料をきかした辛いカレー料理がよく出される。しかしその種類ははなはだ多く、立ち寄ったレストランでの海老のカレーはすばらしく、ちょっと日本では食べられないだろう。唯一の産業として砂糖があるが、工業、農業などに見るべきものがなく、経済的に恵まれない島にとって、観光は大きな比重を占めている。ヨーロッパ諸国と直接空路で結ばれ、またこれらの島を巡る定期空路も発達している。海岸付近に位置する豪華なホテルの設備も良く、目の前の珊瑚礁を眺め、夜ともなると頭上に南十字星のきらめく、すばらしい環境である。

中でも、大小100余りの島からなるセイシェルは島の楽園として名高く、ヨーロッパの人々の保養地である。大小無数の島を船で巡るクルーズ、本島内部の観光など、遠く日本から離れたこの島々は地理的にも多くの魅力に富んでいる。